

魏志倭人
伝に登場

「伊都国」の出土品がずらり

内行花文鏡など展示

開館半年 歴史博物館が好評

岡県市
福原前

中国の史書・魏志倭人伝に登場する「伊都国」時代(弥生時代後期)の貴重な資料が展示されている福岡県前原市井原の市立「伊都国歴史博物館」が、昨年10月末の開館以来、半年が過ぎ、好評を博している。同博物館建設に尽力してきた市議会公明党の成吉大二、笹栗純夫の両議員がこのほど、西谷正館長の案内で館内を視察した。

同市には、伊都国時代の三雲南小路遺跡や平原遺跡、井原遺跡などがあり、そこから国内最大の銅鏡「内行花文鏡」(直径46・5センチ)4面をはじめ銅鏡118枚やガラス璧、玉類など伊都国と中国王朝との深いつながりを示す出土品が多数発掘されている。

博物館は、市伊都歴史資料館(1987年開館)が手狭となったため隣接して建設された。鉄筋コンクリート4階建ての新館と旧館(元・資料館)を合わせて延べ床面積約4100平方メートル。1階の企画展示室では「伊都国発掘2005」(6月5日まで)を開催。3階の常設展示室のテーマは「伊都国のタイムカプセル」。弥生時代から古墳時代中期の出土品を展示することで、伊都国誕生からヤマト政権への

変遷を紹介している。展示の中には、国の重要文化財の「内行花文鏡」をはじめ素環頭大刀、玉類など貴重品が多く、平

原遺跡の王墓発掘現場を再現した原寸大の模型(縦5メートル、横4メートル)。展示内容の説明は、英語、中国語、韓国語、



銅鏡「内行花文鏡」の前で西谷館長(左)から説明を受ける成吉(中)、笹栗(右)の両議員

日本語の4カ国語対応のヘッドホン式音声ガイドで聞くことができる。博物館の建設については、成吉議員が2000年12月から1年間、伊都歴史資料館建設・活用推進協議会会長として強力に推進。笹栗議員は昨年2月に東京国立博物館などを視察し、音声ガイドの採用を提案してきた。